

広告

2016年春。異なる業種の企業グループを束ねる日本カバヤ・オハヨーホールディングスが発足した。その新たなリーダー、野津社長が対談相手として選んだのは、卓越した身体理論を提唱する廣戸聡一。なぜ、身体理論が野津社長の目指す経営戦略の裏付けとなるのか？

安定していればバランスをとる必要がない

野津 ホールディングスの傘下にある事業会社をリードしていく上で、企業経営と廣戸さんの身体理論は「軸」が大切という部分がよく似ている。いやそのものではないでしょうか？

廣戸 日本では昔から筋肉よりも骨が重要と考えられてきました。「肉を切らせて骨を断つ」という言葉があるように、骨がしっかり定まらなければ、人間は精神的にも肉体的にも不安定な状態に陥ってしまいます。私が提唱している「軸」というのは、人体における骨にあたるものです。

野津 骨・骨格ということですね。私が廣戸さんの身体理論の中で最も驚愕したのは、「安定していればバランスをとる必要がない」。これは真理ではないでしょうか!!「軸」を構築することができれば、無理をしてバランスをとる必要がないので、自由ですね。また強靱でしなやかな企業体質になり、さらに合理的で生産性の高いパフォーマンスを発揮できる。まさに調整や妥協がいらない世界です。安定した「軸」さえできれば、たとえ迷ったとしても基本に戻れるはずですよ。

廣戸 その通りですね。「軸」を持つことによる安定は「停止状態」ではありません。安定しながらも身体の中には常に微細な動きをしており、それによってフレキシブルに対応できるようになっています。自由に動くためにも、「軸」が必要なのです。

野津 その微細な動きというのが、企業におけるコミュニケーションですね。

「人」×ダイナミクス

野津 私の役割は、これまで個別に運営されてきた事業会社に、方向性を指示することです。多様な卓越性を、企業レベルだけでなく「人」のレベルで有機的に連動すること。肩書や立場にとられないダイナミックなコミュニケーションが重要であると思っています。ダイナミクスとは、様々なものがひとつの目的に向かって複合的かつ立体的に発生する力だ、と廣戸さんからお聞きしたことがあります。いかがですか？

廣戸 まさしくその通りです。競技で結果を出すためにも、肉体を余すことなく運動させなければいけない。身体の動きで言うと、連動性とは関節の動きの順番だと思われがちですが、順番はさほど意味はありません。大切なのは動作の目的、例えば、脳は順番など考えずに情報を同時発信します。脳が「水を飲む」と指令を出した、全身の細胞が全て水を飲むように動き出すのです。野津社長がおっしゃった有機的なつながりというのは、まさにそういう状態のことですね。

野津 そうですね。現在、ホールディングスでは100以上のプロジェクトが連動して目的に向かって動いています。逆説的かもしれませんが、優先順位・順番をつけていません。なぜなら、重要でない案件などありませんからね。

目的の明確化

野津 重要なものは目的を明確化することです。売上や利益は手段であって目的ではありません。日本では往々にして手段を目的にすり替えてしまう傾向があります。目的を明確にして組織全体に浸透させ続けることが重要です。

廣戸 なるほど。スポーツ界でも、指導者が狭い概念にとらわれて目的と手段をばき違え、スイングやフォームを変えたから結果

感動を生み続ける 経営とは!?

真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする



一般社団法人「レッシュ・プロジェクト」
代表 廣戸 聡一

1961年、東京都生まれ。独自の身体理論「レッシュ理論」を提唱し、注目されている。トップアスリートのトータルコンディショニングから一般治療までサポートしている。JOC日本オリンピック委員会強化スタッフ。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社
代表取締役社長 野津 基弘

1971年、岡山県生まれ。カバヤ食品、オハヨー乳業など異なる業態の企業グループを束ねる「日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社」の代表取締役社長。機能的なガバナンス経営を構築している。

が出たと思いがちです。しかしそれは手段でしかなく、新しい次の手段に淘汰されてしまいます。大切なことは、どんな形にも無限に変化できるように、頭はもちろん、肉体にも正しい知識を与えてあげることです。

野津 まさに私たちは存在目的と経営方針を立て、数字だけに頼らない経営に着手しました。

リミッターを解除し、突き抜けて貰え!

野津 現在、様々なトップアスリートを指導している廣戸さんから見て、強くなる、勝つために必要な資質は何だと思われませんか。

廣戸 選手に一番求められるのは「気持ちですね。目的に対して限界を持たない」ということです。自らの基準点を安易に決めてしまふのは油断ですよ。昨日できたことが今日できるとは限らないし、昨日できた自分の最高のものが、1日経ったら他の誰かにも追い越される可能性がある。ですから、日々精進しなければいけない。上には上がいるという厳しい現実を知り、それでもなお自分には上に行きたいと思うかどうか。そういう強い気持ちがあるから、世界で戦うためには絶対に必要です。

野津 企業も同じです。組織の中には守らなければいけない約束事があります。私たちにそれはそれが「グループ存在目的」と「経営方針」です。この2つさえ守っていればそれ以外は自由である。目的が明確になり、あらゆる可能性に挑戦できます。私は事あるごとに「突き抜けて貰え!」と伝えています。これは「リミッター」をかけるな、自らを解放しろということなのです。いままでも感動する商品やサービスがそうやって生まれてきました。そのため働き方も変えていくつもりです。

イノベーション

野津 「真の欲求を究めて、ホンモノをカタチにする」。例えるなら、ロケットができたから月へ行こうとしたのではなく、月に行きたいと思ったからロケットが開発されました。あらゆる知見や技術を結集して、感動と希望を与えられるチカラこそ、私たちが求める経営でありたいと思っています。

廣戸 大いなる目標そのものを実現させるということですね。

私たちが求める軸とは

廣戸 世界を舞台にして肌で感じるのは、アイデンティティの大切さです。自分は日本人であり、その誇りを胸に立つということですね。自らのことをよく知り、その上で相手と真摯に向き合うことによって、正当な関係性が生まれると思っています。

野津 文化や歴史観を踏まえ、日本国・日本人としての誇りがきちんと持てるかどうか。私もその重要性を強く感じています。日本を俯瞰(ふかん)すれば、国内のいたるところで海外企業の商品やサービスが提供され、つねにグローバル競争化にあります。日本を世界のど真ん中と考え、そこで「軸」を作り、力を蓄え、世界に向けて誇りあるブランドを構築していきたいですね。

廣戸 日本の労働の濃密さや、製品のクオリティは紛れもなく世界トップレベルでしょう。日本人の真面目さ、勤勉さは絶対に劣るものではない。さらに、日本ならではの「軸」を活かした身体を使い方ができれば世界を制することができる、そうアスリートたちに言っています。

野津 いま私たちは、つねに挑戦者のつもりで新たな体制と機能を整え、新しい夢を描きはじめています。この指とまれ!と上げた指に、廣戸さんをはじめソックスするような多くの素晴らしい仲間が集まってくれています。その喜びと幸せに感謝しながら、感動する商品やサービスを生み出し続けたいと思っています。廣戸さん、本日はありがとうございました。

廣戸 これからの展開も楽しみですね。本日はありがとうございました。

日本カバヤ・オハヨーホールディングス株式会社

- カバヤ食品株式会社 ●オハヨー乳業株式会社 ●エクセルバック・カバヤ株式会社 ●株式会社スクエアビル ●フジ物流株式会社 ●東京レジャー開発株式会社 ●エス・バイ・エル・カバヤ株式会社
- 株式会社イケダベツファーム ●トータルアシスト・カバヤ株式会社 ●株式会社瀬戸内海経済レポート ●株式会社サンユー総合教育研究所 ●株式会社システムメイト ●学校法人三友学園